

京都市のまちづくり活動に関するアンケート  
結果概要及び考察

資料 4

設問 9 から設問 22 については、「活動している人」が回答対象

【設問 9】 まちづくり活動を始めたきっかけとして、最も影響のあったことからは何ですか？（いずれか 1 つ選択）

(1) アンケート結果

選択項目	割合
③通っている学校や勤め先での活動を通じて	19.0%
⑧解決したい社会課題・地域課題があったから	18.5%
⑦社会や地域のために役立ちたいと思っていたから	17.6%
①所属する自治会や町内会，地域組織の活動の一環で	13.2%
⑩その他	7.3%
②地域組織以外で活動している家族・知人・友人から誘われて（お願いされて）	6.8%
⑤活動に関する情報や体験談を新聞・雑誌・リーフレット・インターネットなどで見て興味がわいたから	5.9%
⑥交流会や講座等に参加して興味がわいたから	4.9%
④活動を行っている家族・知人・友人の話聞いて興味がわいたから	4.4%
⑨わからない／忘れた	2.4%

(2) 考察

特徴	考察
「⑧解決したい社会課題・地域課題があったから」と「⑦社会や地域のために役立ちたいと思っていたから」の合計が 36.1%であった。	ア 社会や地域をよりよくしたいという思いから活動始めた人が多く、思いがある人に対して、具体的なきっかけが増えれば、活動の裾野が広がると思われる。
職業別では、特に学生と会社員において、「③通っている学校や勤め先での活動を通じて」の割合がそれぞれ、36.4%、35.5%と高かった。 また、学生、会社員ともに、「②地域組織以外で活動している家族・知人・友人から誘われて」と回答した人はいなかった。（アンケート報告書参照）	イ 学生や会社員にとっては、学校や勤め先での活動が、まちづくり活動に参加するきっかけになりやすい。

【設問10】 利用（参加）して良かったと思う京都市のまちづくり活動支援事業は何ですか？（良かったものを2つまで選択）

（1）アンケート結果

選択項目	割合
①補助金	29.4%
③その他の意見交換会・交流会	17.0%
⑦利用（参加）したことがない	16.7%
②区役所・支所のまちづくりカフェ	14.5%
⑨その他	6.4%
④講座	5.3%
⑥窓口での相談	5.0%
⑤専門家の派遣・情報発信の支援	3.9%
⑧良かったものは無い	1.8%

（2）考察

特徴	考察
「①補助金」と、「②区役所・支所のまちづくりカフェ」、「③その他の意見交換会・交流会」で、60.9%を占めている。	ウ 京都市の支援としては、交流会と補助金に対するニーズが高い。

【設問 1 1】 まちづくり活動を行うに当たり、特に苦勞を感じることは何ですか？  
 (主な苦勞を 2 つまで選択)

(1) アンケート結果

選択項目	割合
⑤資金不足	17.5%
⑦組織やチームの運営(目標の共有, 意思疎通など)	15.4%
⑨仲間集め	12.6%
③イベント等の集客	11.7%
④団体や活動そのものの PR・情報発信	8.3%
②企画の方法	6.8%
⑩外部の団体や人との協働	6.8%
⑪苦勞を感じない	6.2%
①補助金や講座など支援を受けるための情報収集	5.2%
⑫その他	4.0%
⑥活動場所の不足	3.4%
⑧活動メンバー外で相談できる人がいない又は不足	2.2%

(2) 考察

特徴	考察
⑤, ⑦, ⑨, ③が特に多かった。 また、「③イベント等の集客」と「④団体や活動そのものの PR・情報発信」の情報発信に関する項目を合計すると 20.0%であった。	<b>エ</b> 主に苦勞している点は、以下のもの <ul style="list-style-type: none"> <li>・資金不足</li> <li>・組織やチームの運営</li> <li>・仲間集め</li> <li>・情報発信</li> </ul>
所属団体別では、任意団体、個人において、において、「⑨仲間集め」という回答がそれぞれ、16.7%, 22.2%と高かった。 なお、その他の団体において、「⑨」の回答は 0~7.5%であった。(アンケート報告書参照)	<b>オ</b> 特に、任意団体及び個人において、仲間集めに苦勞している。

【設問 1 2】 京都市が実施する活動支援策や交流事業等を何で知りますか？（2つまで選択）

(1) アンケート結果

選択項目	割合
①市民しんぶん（区版）	17.4%
②市民しんぶん（全市版）	16.1%
⑩知人から	14.6%
⑤京都市ホームページ（京都市情報館）	13.9%
④公共施設等でのチラシ・ポスター	13.3%
⑨フェイスブックやツイッターなどの SNS	10.4%
⑪その他	4.7%
⑥市民活動総合センターホームページ	4.4%
③公共施設の窓口で直接	3.8%
⑧「みんなでつくる京都」ホームページ	0.9%
⑦景観まちづくりセンターホームページ	0.3%

(2) 考察

特徴	考察
年代別では、年代が上がるにつれて、「①市民しんぶん（区版）」と「②市民しんぶん（全市版）」の割合が増加した。（アンケート報告書参照）	カ 市民しんぶんやチラシ等の紙媒体での情報発信は、まだまだ効果的である。
年代別では、どの年代においても、「④公共施設等でのチラシ・ポスター」の回答が一定割合あった。	
10代、20代においては、「①市民しんぶん（区版）」と「②市民しんぶん（全市版）」の合計がそれぞれ、11.7%、20%と高くなかった。	キ 特に、10代、20代に対しては、紙媒体に加え、インターネット等が効果的である。

【設問 1 3】 団体の活動の発信，イベントの集客などにおいて，行政（京都市）からどのような支援があればよいと思いますか？（希望を 2 つまで選択）

（1）アンケート結果

選択項目	割合
①京都市のサイトや SNS・冊子等で活動やイベントの紹介を行う	50.2%
②情報発信に関する講座を行う	16.2%
③専門家などの詳しい方を派遣する	14.8%
⑤わからない	8.1%
⑥その他	7.0%
④支援を必要としていない	3.7%

（2）考察

特徴	考察
「①京都市のサイトや SNS・冊子等で活動やイベントの紹介を行う」という回答が 50%と飛びぬけて多かった。所属団体別においても，全ての団体で最も多かった。（アンケート報告書参照）	ク 団体の情報発信支援としては，京都市の媒体を活用することが，より求められている。

・その他の回答でも，公共の場でのチラシの配架やポスターの掲示などを求める意見が多かった。

【設問14】 まちづくり活動の資金を確保するために、特に課題を感じることは何ですか？（重要課題を2つまで選択）

(1) アンケート結果

選択項目	割合
②補助金の情報は知っているが、使える補助金が少ない	25.1%
⑨わからない	15.2%
①補助金の情報をどこで知ればいいのかわからない	14.1%
⑦参加費等で資金がまかなえる仕組みにしたいが、どうすればよいかわからない	11.7%
④寄付を募集しても、なかなか集まらない	9.9%
③補助金の申請を行っても、不採択となることが多い	7.1%
⑩その他	7.1%
⑧課題を感じていない	5.3%
⑤クラウドファンディングを行いたいが、やり方がわからない	4.2%
⑥クラウドファンディングを行ったが、目標達成しなかった	0.4%

(2) 考察

特徴	考察
「②補助金の情報は知っているが、使える補助金が少ない」と「①補助金の情報をどこで知ればいいのかわからない」の割合が高かった。	<p>ケ 活動資金確保の課題としては、「使える補助金が少ない」ということが最も多かった。</p> <p>また次いで多かった意見は「補助金の情報をどこで知ればいいのかわからない」という意見であり、活動資金確保として補助金への期待が大きいことがうかがえる。</p>

【設問15】 専門家などに、組織運営や広報の支援を受けたいと思いますか？（費用負担は無し）（いずれか1つ選択）

(1) アンケート結果

選択項目	割合
②受けたいと思う	33.2%
③あまり思わない	22.9%
①ぜひ受けたいと思う	18.5%
⑤わからない	12.7%
④思わない	9.8%
⑥その他	2.9%

(2) 考察

特徴	考察
「②受けたいと思う」と「①ぜひ受けたいと思う」の合計が51.7%であった。 「③あまり思わない」と「④思わない」の合計が32.7%であった。	コ 組織運営や広報について、専門家の支援を受けたいという人が、半数程度いた（無料の前提）。

【設問16】 まちづくりについて、多様な人と意見交換や交流できる機会が充実していると感じますか？（いずれか1つ選択）

(1) アンケート結果

選択項目	割合
③どちらとも言えない	42.9%
②不足している	24.4%
①充実している	22.4%
④そういった機会を求めている/わからない	7.3%
⑤その他	2.9%

(2) 考察

特徴	考察
「②不足している」が24.4%、「①充実している」が22.4%であった。	サ 交流会等について、「不足している」と感じている人が、「充実している」と感じている人を若干上回った。

【設問 17】 多様な人と意見交換や交流する場に参加する場合、何を期待しますか？(主に期待する事を2つまで選択)

(1) アンケート結果

選択項目	割合
①ネットワークが広がること	31.3%
③活動のヒントをもらうこと	19.6%
②具体的に協力してもらえたり一緒に活動する人を増やすこと	18.8%
⑤何らかの考え方や知識を吸収すること	16.5%
④その場で、新しいアイデアが生まれること	9.4%
⑦その他	2.3%
⑥そういった機会を求めている/わからない	2.3%

(2) 考察

特徴	考察
<p>「①ネットワークが広がること」と「②具体的に協力してもらえたり一緒に活動する人を増やすこと」の合計が 50.0%であった。</p> <p>「③活動のヒントをもらうこと」と「④その場で、新しいアイデアが生まれること」、「⑤何らかの考え方や知識を吸収すること」の合計が 45.5%であった。</p>	<p>シ 交流会等に対して、人とのつながりを期待する人と、知識やアイデアを期待する人の割合が同程度であった。</p>
<p>所属団体別においては、自治会・町内会では、「②具体的に協力してもらえたり一緒に活動する人を増やすこと」が 31.3%と最も多かった。</p> <p>また、設問 11 においては、自治会・町内会の苦勞は、「⑦組織やチームの運営（目標の共有、意思疎通など）」が最も多く 20.6%であった。</p>	<p>ス 自治会・町内会の活動では、協力者や仲間集めに興味があり、組織づくりに苦勞していることがわかる。</p>

【設問18】 あなたがまちづくり活動を行うに当たって、外部の団体や人と協働する必要性を感じますか？(いずれか1つ選択)

(1) アンケート結果

選択項目	割合
①とても感じる	46.8%
②感じることもある	39.0%
⑤わからない	5.9%
③あまり感じない	3.9%
④感じない	2.9%
⑥その他	1.5%

(2) 考察

特徴	考察
「①とても感じる」「②感じることもある」の合計は、85.9%であった。	<b>セ</b> 多くの人が、外部の団体や人と協働する必要性を感じている。
所属団体別においては、NPOと任意団体が、「①とても感じる」と回答した割合が特に高かった。(それぞれ48.1%, 54.5%)	<b>ソ</b> 特に、NPOと任意団体において、協働の必要性を感じている人が多い。

【設問 19】 外部の団体との協働で、もっとうまくいけばよいと思うのは、どのような団体ですか？（2つまで選択）

(1) アンケート結果

選択項目	割合
①京都市役所・区役所	28.6%
②企業	19.8%
③自治会・町内会	19.2%
⑥任意団体	11.2%
⑤NPO	8.6%
④地域組織	7.4%
⑦その他	5.3%

【設問 20】 設問 19 でその回答を選んだ理由は何ですか？（自由記入）

(1) アンケート結果

<b>設問 19 で「京都市役所・区役所」を選択した理由</b>
行政の信用力、それに伴う情報の発信力・ネットワーク等を期待した意見（15件）
組織が複雑、職員との距離があるなど、京都市役所・職員に課題を感じているという意見（12件）
市民との協働や、市民同士の協働のコーディネートなど、公的機関としての役割を期待した意見（11件）
現状、連携ができていないから等の意見（2件）
公共施設を使用したいという意見（1件）
<b>設問 19 で「企業」を選択した理由</b>
企業のノウハウやネットワーク等により活動が広がることを期待した意見（9件）
企業の社会的役割を期待した意見（8件）
資金や場所の協力等を期待した意見（8件）
現状、連携ができていないから等の意見（5件）
<b>設問 19 で「自治会・町内会」、「地域組織」を選択した理由</b>
地域の重要な組織だからという趣旨の意見（20件）
現状、連携ができていないから等の意見（7件）
連携のしにくさを感じるという趣旨の意見（6件）
自治会・町内会のネットワークや保有情報を期待した意見（4件）
その他（4件）
<b>設問 19 で「NPO」を選択した理由</b>
自由な発想や企画力等を期待した意見（4件）
現状、連携ができていないから等の意見（4件）
NPO同士の連携を深めたいという意見（3件）

設問19で「任意団体・グループ」を選択した理由
自由な発想や企画力やネットワーク等を期待した意見（7件）
現状、連携ができていないから等の意見（4件）
任意団体・グループ同士の連携を深めたいという意見（2件）
その他（1件）
設問19で「その他」と選択した理由
大学や小・中学校との協働がうまくいけばよいという意見（3件）
商店会との協働がうまくいけばよい（2件）
学区のキーマンとの協働がうまくいけばよい（1件）

(2) 考察

「①京都市役所・区役所」との協働
<p>タ 「京都市役所・区役所」との協働については、行政の信用力、情報の発信力・ネットワーク等を期待した意見が多かった。一方、公的機関としての対応の限界や、職員との距離を感じており、今現在うまく協働ができていないと感じているために、選択したという意見もあった。</p> <p>また、市民同士の協働のコーディネートについても期待されている。</p>
「②企業」との協働
<p>チ 企業と協働する目的は、大きくは、以下の3つに分類された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画運営や情報発信のノウハウを「学ぶ」</li> <li>・資金や場所を「協力」を期待する</li> <li>・社会的役割を期待し「協働」する</li> </ul>
「③自治会・町内会」「④地域組織」との協働
<p>ツ 地域の生活に根ざした活動を大切にすべき、地元の人に認められるような活動をしたいという意見が最も多かった。一方、これらの団体との接点が薄かったり、新しい取組を受け入れてもらえないと感じている意見もあった。</p>
「⑤NPO」「⑥任意団体・グループ」との協働
<p>テ 自由な発想や企画力等が期待されている。また、NPO同士、任意団体同士による連携を深めたいという意見もあった。</p>

【設問 2 1】 誰もが希望に応じて、まちづくり活動を行える社会環境をつくるために、行政（京都市）においてどのような取組が必要だと思いますか？（特に必要だと思う事を2つまで選択）

（1）アンケート結果

選択項目	割合
⑧活動への参加のきっかけをつくる取組を進める	21.9%
①活動の意義や充実感などを市民に普及・啓発する	19.5%
④活動しやすい環境づくりに積極的に取り組む企業の事例紹介や表彰を行う	10.9%
③活動の実践事例をインターネット等で紹介する	10.0%
②活動の意義や充実感などを企業に普及・啓発する	8.2%
⑤育児・介護休暇の取得促進や残業時間削減など、具体的な取組を企業に働きかける	8.2%
⑪その他	7.6%
⑥保育などの子育て支援の取組を進める	6.4%
⑩わからない	3.3%
⑦介護支援の取組を進める	3.0%
⑨必要ない	0.9%

（2）考察

特徴	考察
市民への働きかけである「①」「③」「⑧」の合計は51.4%で、企業への働きかけである「②」「④」「⑤」の合計は27.4%を大きく上回った。社会保障への仕組の働きかけである「⑥」「⑦」の合計はさらに低く6.4%であった。	ト 活動を行う人を増やすには、環境や状況に働きかけるよりも、きっかけづくりや、意義・充実感の普及・啓発の方が有効であると思われる。

※「⑪その他」の意見の中では、行政職員がまちづくり活動の現場に出て話を聞き、活動の仕組みを理解して欲しいという意見や、担当者の変更を減らしてほしいなど、職員の知識・理解に関する意見が複数あった。

【設問 2 2】 この他、あなたのまちづくり活動を継続・発展させるために京都市役所・区役所に行って欲しいことはありますか？（自由記入）

(1) アンケート結果

まちづくり活動の普及啓発や表彰等を求める意見（11件）
様々な主体間の連携創出や交流の場を求める意見（7件）
市職員に活動や協働への理解を求める意見（5件）
スタートアップ支援以外の補助金制度を求める意見（5件）
補助金制度の継続・拡充を求める意見（6件）
活動場所を求める意見（4件）
市職員との意見交換・交流を求める意見（3件）
協働のコーディネート等求める意見（3件）
情報発信の支援を求める意見（3件）
その他

(2) 考察

ナ まちづくり活動を継続・発展させるために、京都市役所に行って欲しいこととして、活動の普及啓発や、連携創出・交流の場に関するニーズが高かった。

また、補助金に関する意見も多く、補助金制度への期待の高さもうかがえる。

設問 2 3 から設問 2 5 については、「活動していない人」が回答対象

【設問 2 3】 どのようなきっかけがあれば、まちづくり活動を行ってみようと思いますか？(主に考えられるものを 2 つまで選択)

(1) アンケート結果

選択項目	割合
①活動しようと思える分野が見つかれば	27.8%
③一緒に活動できる人が見つかれば	15.9%
⑤仕事や学業・家事・育児などが忙しくなくなれば	15.2%
②活動をどう始めていいかわかれば	11.3%
④家族・知人・友人等の誘いがあれば	7.9%
⑦費用の不安がなくなれば	7.9%
⑧わからない	6.6%
⑥家庭環境が許せば	2.6%
⑨活動を始めたいと思わない	2.6%
⑩その他	2.0%

(2) 考察

特徴	考察
「①活動しようと思える分野が見つかれば」が 27.8% で最も多かった。次いで、「③一緒に活動できる人が見つかれば」が 15.9% であった。	ニ 現在活動をしていない人からは、活動したい分野や、一緒に活動できる人が見つかれば、活動を行うきっかけとなるという意見が多かった。

【設問 2 4】 誰もが希望に応じて、まちづくり活動を行える社会環境をつくるために、行政（京都市）においてどのような取組が必要だと思いますか？（特に必要だと思うものを2つまで選択）

（1）アンケート結果

選択項目	割合
⑧活動への参加のきっかけをつくる取組を進める	21.5%
①活動の意義や充実感などを市民に普及・啓発する	18.1%
④活動しやすい環境づくりに積極的に取り組む企業の事例紹介や表彰を行う	14.1%
③活動の実践事例をインターネット等で紹介する	11.4%
⑥保育などの子育て支援の取組を進める	9.4%
⑤育児・介護休暇の取得促進や残業時間削減など、具体的な取組を企業に働きかける	7.4%
⑩わからない	5.4%
②活動の意義や充実感などを企業に普及・啓発する	4.7%
⑦介護支援の取組を進める	3.4%
⑪その他	3.4%
⑨必要ない	1.3%

（2）考察

活動をしている人を対象にした設問（設問 2 1）とほぼ同様の結果であった。

【設問 2 5】 この他、まちづくり活動を始めるために京都市役所・区役所に行って欲しいことはありますか？（自由記入）

（1）アンケート結果

回答いただいた意見に特定の傾向は見られなかった。